

ZENworks 2017 Update 1 Readme

2017年7月



この Readme ファイルでは、ZENworks 2017 Update 1 リリースに関する情報を提供します。

- ◆ 1 ページのセクション 1 「ZENworks 2017 Update 1 の新機能」
- ◆ 1 ページのセクション 2 「ZENworks 2017 Update 1 の展開の計画」
- ◆ 3 ページのセクション 3 「ZENworks 2017 Update 1 のダウンロードと展開」
- ◆ 4 ページのセクション 4 「ZENworks 2017 Update 1 で解決された問題」
- ◆ 4 ページのセクション 5 「ZENworks 2017 Update 1 で引き続き存在する問題」
- ◆ 4 ページのセクション 6 「既知の問題」
- ◆ 10 ページのセクション 7 「その他のマニュアル」
- ◆ 10 ページのセクション 8 「保証と著作権」

1 ZENworks 2017 Update 1 の新機能

このリリースに含まれる新機能の詳細については、『ZENworks 2017 Update 1 新機能リファレンス』を参照してください。

2 ZENworks 2017 Update 1 の展開の計画

管理ゾーン内での ZENworks 2017 Update 1 の展開を計画するには、次のガイドラインを使用します。

- ◆ ディスク暗号化を使用している場合に Full Disk Encryption Agent を更新するには、ZENworks 2017 Update 1 に更新する前に、管理対象デバイスからディスク暗号化ポリシーを削除する必要があります。

ZENworks 2017 Update 1 で Full Disk Encryption を更新する方法の詳細については、『ZENworks 2017 Update 1 - Full Disk Encryption Update Reference』を参照してください。

- ◆ まずプライマリサーバをアップグレードし、次にサテライトサーバ、最後に管理対象デバイスという順番で ZENworks 2017 Update 1 にアップデートする必要があります。ゾーン内のすべてのプライマリサーバが ZENworks 2017 Update 1 にアップグレードされるまで、管理対象デバイスおよびサテライトサーバをアップグレードしないでください (または、新しい 2017 Update 1 エージェントをゾーンに追加しないでください)。

注: プライマリサーバがすべてアップグレードされるまで、エージェントは整合性のないデータを受け取る可能性があります。したがって、このプロセスのこの部分ではできる限り短時間で実行することをお勧めします。理想的には、最初のプライマリサーバのアップグレード直後に実行します。

- ◆ 管理対象デバイスが ZENworks 11.x 以上に更新されている場合、ゾーン内の管理対象デバイスを直接 ZENworks 2017 Update 1 にアップデートできます。
- ◆ ZENworks 2017 Update 1 へのアップグレードが完了すると、システムは再起動します。ただし、次の場面では再起動が 2 回必要になります。
 - ◆ Endpoint Security が有効な状態で 11.x から ZENworks 2017 または 2017 Update 1 にアップデートする場合、2 回再起動して ZESNETAccess ドライバをロードする必要があります。
 - ◆ 管理対象デバイスがクライアントセルフディフェンスが有効な Windows 10 を使用していて、11.4.x から ZENworks 2017 または 2017 Update 1 にアップグレードする場合、ZENworks コントロールセンターでクライアントセルフディフェンスを無効にして管理対象デバイスを再起動してから、アップデートを実行する必要があります。この場合、デバイスを 2 回再起動する必要があります。
 - ◆ 管理対象デバイスにディスク暗号化ポリシーが適用されている場合に、Full Disk Encryption Agent を ZENworks 2017 Update 1 にアップデートするには、最初にポリシーを削除してデバイスを復号化する必要があります。このときデバイスを再起動する必要があります。その後、デバイスを 2017 Update 1 にアップデートし、このときに 2 回目の再起動を実行する必要があります。

重要: 11.x より前のバージョンが実行されている管理対象デバイスは、まず 11.x にアップグレードする必要があります。システムは 11.x へのアップグレード後に再起動し、ZENworks 2017 Update 1 システム更新の展開時にもう一度再起動します。

表 1 ZENworks 2017 Update 1 への ZENworks 累積エージェントアップデート: サポートされるパス

管理対象デバイスのタイプ	オペレーティングシステム	サポートされるバージョン	サポートされないバージョン
プライマリサーバ	Windows/Linux	v2017 Update	v2017 より前の任意のバージョン
サテライトサーバ	Windows/Linux/Mac	v11.0 以上のバージョン	v11.x より前の任意のバージョン
管理対象デバイス	Windows	v11.0 以上のバージョン	v11.0 より前の任意のバージョン
	Linux	v11.0 以上のバージョン	NA
	Mac	v11.2 以上のバージョン	NA

- ◆ システム更新をインストールする前に、次の場所に十分な空きディスク容量があることを確認してください。

場所	説明	ディスク容量
Windows: %zenworks_home%\install\downloads Linux: opt/novell/zenworks/install/downloads	エージェントのパッケージを維持するため	5GB
Windows: %zenworks_home%\work\content-repo Linux: /var/opt/novell/zenworks/content-repo	zip ファイルをコンテンツシステムにインポートするため	5GB

場所	説明	ディスク容量
エージェントキャッシュ	ZENworks サーバを更新するために必要な、該当するシステム更新コンテンツをダウンロードするため	1.5GB
システム更新ファイルがコピーされる場所これは、システム更新 zip ファイルをインポートするために使用される ZENworks サーバにのみ適用されます。	ダウンロードしたシステム更新 zip ファイルを保存するため	5GB

3 ZENworks 2017 Update 1 のダウンロードと展開

ZENworks 2017 Update 1 のダウンロードと展開の方法については、『[ZENworks 2017 Update 1 System Updates Reference](#)』を参照してください。

管理ゾーンが、ZENworks 2017 より前のバージョンのプライマリサーバで構成されている場合、これらのプライマリサーバすべてを ZENworks 2017 にアップグレードした後でのみ、プライマリサーバに ZENworks 2017 Update 1 を展開できます。手順については、『[ZENworks アップグレードガイド](#)』を参照してください。

管理タスクについては、[ZENworks 2017 Update 1](#) のマニュアルのサイトを参照してください。

重要: ゾーン内のすべての結合プロキシサテライトサーバが更新されるまで、Remote Management (RM) Viewer を更新しないでください。結合プロキシ経由で Remote Management を実行するには、RM Viewer のバージョンと結合プロキシのバージョンが同じであることを確認してください。

ZENworks 2017 Update 1 アップデートをダウンロードして展開する前に、必ず [1 ページのセクション 2 「ZENworks 2017 Update 1 の展開の計画」](#) を読んでください。

ゾーン内のすべてのプライマリサーバが ZENworks 2017 にアップグレードされるまで、ZENworks 2017 Update 1 を展開しない

この更新では、データベースのスキーマを変更する必要があります。最初のパッチインストール中は、サービスはマスタまたは専用のプライマリサーバでのみ実行されます。これは、データベース内で変更中のテーブルに他のプライマリサーバがアクセスしないようにするためです。

マスタまたは専用のプライマリサーバが更新されると、残りのサーバでサービスが再開され、アップデートが同時に適用されます。

注: アップデート中に手動でサーバ上のサービスを停止または開始する必要はありません。サービスは自動的に停止および開始されます。

システム更新を延期して管理対象デバイスからログアウトしても、システム更新はデバイスに適用されます。

ZENworks 2017 Update 1 がインストールされた管理ゾーンでサポートされる管理対象デバイスとサテライトサーバのバージョンのリストについては、『[Supported Managed Devices and Satellite Server Versions](#)』を参照してください。

4 ZENworks 2017 Update 1 で解決された問題

このリリースでは、前のリリースで見つかった複数の問題が解決されています。解決された問題のリストについては、[サポートナレッジベースの TID 7020155](#) を参照してください。

5 ZENworks 2017 Update 1 で引き続き存在する問題

ZENworks 2017 Update 1 の旧バージョンで明らかになった問題のうち、一部は依然として解決されていません。詳細については、次の Readme ドキュメントを参照してください。

- ◆ [ZENworks 2017 Readme](#)

6 既知の問題

このセクションでは、ZENworks 2017 Update 1 の使用時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ [4 ページのセクション 6.1 「ZENworks の設定」](#)
- ◆ [7 ページのセクション 6.2 「ZENworks エージェント」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 6.3 「ZENworks アプリケーション」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 6.4 「リモート管理」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 6.5 「ZENworks Imaging」](#)
- ◆ [10 ページのセクション 6.6 「Windows 10 更新プログラムが適用された Windows デバイスがブートしないことがある」](#)
- ◆ [10 ページのセクション 6.7 「ZENworks アプライアンス」](#)

6.1 ZENworks の設定

- ◆ [5 ページのセクション 6.1.1 「Windows 2012 R2 デバイスで、zisedit コマンドを使用して IPv4 の値と IPv6 の値を変更した場合、ネットワークアダプタが表示されない」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 6.1.2 「SLES 11 デバイスで、DHCP アドレスによる場所とネットワーク環境の検出に失敗することがある」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 6.1.3 「IPv4 インタフェースがインストールされていない Windows デバイスで ZENworks Java アプリケーションが動作しないことがある」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 6.1.4 「CA の変更を実行する際、証明書チェーンの順序が間違っていると、チェーンされた証明書の検証に失敗する」](#)
- ◆ [6 ページのセクション 6.1.5 「SLES デバイスで pgadmin3 が起動しない」](#)
- ◆ [6 ページのセクション 6.1.6 「DFS 共有を設定する際、\[Install Network MSI \(ネットワーク MSI のインストール\)\] および \[Create Directory \(ディレクトリの作成\)\] バンドルアクションが WNetAddConnection エラーで失敗する」](#)
- ◆ [7 ページのセクション 6.1.7 「iOS デバイスで、電子メールアカウントのパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されないことがある」](#)

6.1.1 Windows 2012 R2 デバイスで、zisedit コマンドを使用して IPv4 の値と IPv6 の値を変更した場合、ネットワークアダプタが表示されない

Windows 2012 R2 デバイスにエージェントをインストールした後、PXE またはブート CD を使用してデバイスをブートし、次の設定で zisedit コマンドを実行した場合、デバイスにログインしたときにネットワーク接続にネットワークアダプタが表示されません。

1. DHCP の値と DHCP6 の値をオフに設定します。
2. IPv4 の値と IPv6 の値を変更します。

解決策 : IPv4 の値と IPv6 の値を個別に設定します。

6.1.2 SLES 11 デバイスで、DHCP アドレスによる場所とネットワーク環境の検出に失敗することがある

SLES 11 デバイスで、ネットワークが NetworkManager を使用して設定されている場合、クライアント IP アドレスのネットワークサービスが IPv6 の DHCP アドレスに一致しないことがあります。そのため、場所とネットワーク環境の検出に失敗します。

解決策 : ifup による方法を使用してネットワークを設定します。

6.1.3 IPv4 インタフェースがインストールされていない Windows デバイスで ZENworks Java アプリケーションが動作しないことがある

Java 8 アプリケーションでは、Windows デバイスに IPv4 スタックが設定されている必要があります。そのため、IPv4 がインストールされていない場合、ZCC Helper などの ZENworks Java アプリケーションが動作しないことがあります。

解決策 : IPv6 スタック以外に IPv4 スタックも設定します。

詳細については、次のリンクを参照してください。

- ◆ <http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/8-known-issues-2157115.html>
- ◆ http://bugs.java.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=8040229

6.1.4 CA の変更を実行する際、証明書チェーンの順序が間違っていると、チェーンされた証明書の検証に失敗する

外部認証局をチェーンする際、新しい証明書ファイルに証明書チェーンが間違った順序で含まれていると、証明書の検証に失敗します。たとえば、チェーンの順序がサーバ > SubCA > RootCA ではなく SubCA > サーバ > RootCA になっている場合、証明書は無効と見なされます。

解決策 : 好きな方法を使用して、(証明書が指定の順序になっている)サーバ証明書チェーンを再作成します。最も簡単な方法は次のとおりです。

- 1 各証明書を base64 形式で別個のファイルとして保存します。
- 2 テキストエディタで各証明書を開きます。次のような内容になっています。

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----  
<cert data>  
-----END CERTIFICATE-----
```

- 3 新しいファイルを作成し、server.cer という名前を付けます。

- 4 各証明書ファイルからテキストをコピーして server.cer ファイルに貼り付け、次の順序ですべての証明書を1つのファイルにまとめます。

```
-----BEGIN CERTIFICATE-----
<Server cert data>
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
<SubCA cert data>
-----END CERTIFICATE-----
-----BEGIN CERTIFICATE-----
<RootCA cert data>
-----END CERTIFICATE-----
```

- 5 server.cer ファイルを保存します。

- 6 この server.cer ファイルを新しい証明書として使用して、外部認証局 (CA) の変更手順を完了します。

6.1.5 SLES デバイスで pgadmin3 が起動しない

SLES デバイスで pgadmin3 を開くと、次のいずれかのエラーが表示されることがあります。

- ◆ *pgadmin3: error while loading shared libraries: libc.so.2: cannot open shared object file: No such file or directory (pgadmin3: 共有ライブラリをロードする処理で、エラーが発生しました: libc.so.2: 共有オブジェクトファイルを開くことができません: このようなファイルまたはディレクトリはありません)*
- ◆ *./pgadmin3: symbol lookup error: /usr/lib64/libgdk-x11-2.0.so.0: undefined symbol: pango_font_map_create_context (pgadmin3: シンボルルックアップエラー: /usr/lib64/libgdk-x11-2.0.so.0: 未定義のシンボル: pango_font_map_create_context)*

解決策: pgadmin3 を開く前に、ターミナルで次のコマンドを実行します。

```
export LD_LIBRARY_PATH="/usr/local/lib64:/usr/local/lib:/usr/lib64:/usr/lib:/opt/novell/zenworks/share/pgsql/lib:/opt/novell/zenworks/share/pgsql/pgAdmin3/lib:$LD_LIBRARY_PATH"
```

6.1.6 DFS 共有を設定する際、[Install Network MSI (ネットワーク MSI のインストール)] および [Create Directory (ディレクトリの作成)] バンドルアクションが WNetAddConnection エラーで失敗する

DFS 共有から [Install Network MSI (ネットワーク MSI のインストール)] または [Create Directory (ディレクトリの作成)] アクションを使用して設定したバンドルが WNetAddConnection エラーで失敗します。

解決策: なし。

[Install Network MSI (ネットワーク MSI のインストール)] を設定する際は、DFS 共有の代わりに UNC パスを使用します。

6.1.7 iOS デバイスで、電子メールアドレスのパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されないことがある

モバイル電子メールポリシーを使用して iOS デバイスに電子メールアドレスをリモートで設定する際に、電子メールアドレスのパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されないことがあります。

解決策：デバイスの [設定] メニューを開いて手動でパスワードを指定します。

6.2 ZENworks エージェント

- ◆ 7 ページのセクション 6.2.1 「古い管理対象デバイスでエージェントを再起動して、プライマリサーバのホスト名が IPv6 アドレスに解決された場合、管理対象デバイスがゾーンに登録されないことがある」
- ◆ 7 ページのセクション 6.2.2 「ZENworks 2017 以前のバージョンのエージェントを、IPv6 アドレスが設定された ZENworks 2017 Update 1 サーバに登録できない」

6.2.1 古い管理対象デバイスでエージェントを再起動して、プライマリサーバのホスト名が IPv6 アドレスに解決された場合、管理対象デバイスがゾーンに登録されないことがある

管理対象デバイスでキャッシュを消去してデバイスを再起動すると、エージェントは initial-web-service ファイルからサーバ URL を読み込みます。このサーバ URL に、IPv6 アドレスに解決されるホスト名が含まれていると、SSL ホスト名の検証に失敗します。そのため、古いエージェントが登録されないことがあります。

解決策：initial-web-service ファイルに IPv4 ベースの URL を追加してから、古いエージェントを更新します。

6.2.2 ZENworks 2017 以前のバージョンのエージェントを、IPv6 アドレスが設定された ZENworks 2017 Update 1 サーバに登録できない

ZENworks サーバの IPv6 アドレスを使用して古いエージェントを正常に登録できますが、エージェントの一部の機能が想定どおりに動作しないことがあります。

解決策：エージェントの登録を解除してから、ZENworks サーバの IPv4 アドレスを使用してエージェントを再登録します。IPv6 アドレスを使用して古いエージェントを登録しないようにしてください。

6.3 ZENworks アプリケーション

- ◆ 8 ページのセクション 6.3.1 「再起動後に ZAPP が自動的に起動する」

6.3.1 再起動後に ZAPP が自動的に起動する

ZENworks トレイアイコンを非表示にする ZECF ポリシーを作成してデバイスに割り当てている場合、デバイスの再起動時に ZAPP が自動的に起動します。

解決策：ZAPP レジストリキーを削除します。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 次のキーを開きます。
 - ◆ 32 ビットの場合：HKLM\Software\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Run
 - ◆ 64 ビットの場合：HKLM\SoftwareWow6432Node\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Run
- 3 ZAPP レジストリキーを削除します。

6.4 リモート管理

- ◆ 8 ページのセクション 6.4.1「IPv6 アドレスを使用して Windows 管理対象デバイスをリモート制御する際に、オープンソース VNC ビューアがサポートされない」

6.4.1 IPV6 アドレスを使用して Windows 管理対象デバイスをリモート制御する際に、オープンソース VNC ビューアがサポートされない

Windows デバイスで、ZENworks Agent が IPv6 アドレスを使用して RealVNC、TightVNC、UltraVNC などのオープンソースビューアに接続できません。

解決策：IPv6 アドレスを使用して Windows デバイスを管理するには、IPv6 互換のオープンソース VNC ビューアを使用します。オープンソース VNC ビューアで IPv4 アドレスを使用して管理対象デバイスと通信することは可能です。

6.5 ZENworks Imaging

- ◆ 8 ページのセクション 6.5.1 「イメージの復元後、RHEL 7 デバイスが保守モードでブートする」
- ◆ 9 ページのセクション 6.5.2 「すでにオペレーティングシステムがインストールされているデバイスに、MDT 展開バンドルを割り当ててオペレーティングシステムを再インストールすると、無限ループが発生する」

6.5.1 イメージの復元後、RHEL 7 デバイスが保守モードでブートする

SELinux が有効な RHEL 7 デバイスのイメージを取得すると、イメージの復元後にデバイスが保守モードでブートします。

解決策：イメージを取得する前に、次の手順で SELINUX を無効にします。

1. /etc/selinux フォルダに移動します。
2. config ファイルで、SELINUX の値を disabled に設定します。
3. デバイスを再起動します。

6.5.2 すでにオペレーティングシステムがインストールされているデバイスに、MDT 展開バンドルを割り当ててオペレーティングシステムを再インストールすると、無限ループが発生する

すでにオペレーティングシステムがインストールされているデバイスに、MDT 展開バンドルを割り当ててオペレーティングシステムを再インストールすると、無限ループが発生します。PXE ブート時に、デバイスは毎回同じ MDT バンドルを選択します。この問題は、デバイスにオペレーティングシステムを再インストールできるようにディスクを準備する際に、MDT (Microsoft Deployment Toolkit) が ZISD (ZENworks Image Safe Data) を消去するために発生します。このため、イメージングサーバはデバイスに割り当てられているイメージング作業の状態を認識できず、状態が消去されません。

解決策：次のいずれかの方法を実行します。

方法 1

- 1 バンドル内にアップロードされた MDT WIM がブート時に使用する、対応する MDT Deployment Share をカスタマイズします。ISDTool.exe を使用して MBR を消去します。
 - 1a ZENworks の [Download (ダウンロード)] ページ (https://zenworks_server_IP_address:port/zenworks-setup) の [Imaging Tools (イメージングツール)] から、32 ビット版の ISDTool.exe をダウンロードします。このファイルを MDT Deployment Share の /Tools/x86 フォルダに配置します。
 - 1b ZENworks の [Download (ダウンロード)] ページ (https://zenworks_server_IP_address:port/zenworks-setup) の [Imaging Tools (イメージングツール)] から、64 ビット版の ISDTool.exe をダウンロードします。このファイルを MDT Deployment Share の /Tools/x64 フォルダに配置します。
 - 1c MDT Deployment Share の Scripts フォルダにある ZTIDiskpart.wsf スクリプトファイルを開き、次の行を「Open an instance for diskpart.exe, and dynamically pipe the commands to the program」という行のすぐ上に挿入します。

```
Dim sampCmd Dim aScriptDir Dim aArchitecture aScriptDir =  
oFSO.GetParentFolderName(WScript.ScriptFullName) aArchitecture =  
oEnvironment.Item("Architecture") sampCmd = aScriptDir & "\..\tools\" & aArchitecture &  
"ISDTool.exe mdt cleandisk " & iDiskIndex oShell.Exec(sampCmd)
```

このスクリプトにより、デバイスが MDT WIM をブートして、カスタマイズされた MDT Deployment Share を使用する際に、MDT が ZISD データを消去しないようにします。

方法 2

- 1 デバイスに MDT Deployment バンドルを適用する前に、イメージングスクリプトプレブートバンドルを使用して MBR を消去します。
 - 1a ZENworks でイメージングスクリプトプレブートバンドルを作成します。**Script Text (スクリプトテキスト)** として次のコマンドを追加します。

```
dd if=/dev/zero of=/dev/sdX count=1 bs=512
```

ここで、/dev/sdX はディスクです。X には a、b、c などの値を指定できます。
 - 1b デバイスでイメージングスクリプトプレブートバンドルを適用します。
 - 1c デバイスに必要な MDT 展開バンドルを適用します。

重要: このオプションは十分に注意して使用してください。上の dd コマンドは MBR を消去します。このコマンドを実行すると、オペレーティングシステムはブートしなくなります。したがって、このコマンドは、デバイスにオペレーティングシステムを再インストールする前にのみ実行してください。

6.6 Windows 10 更新プログラムが適用された Windows デバイスがブートしないことがある

Windows 10 Creators Update が適用された Windows デバイスのイメージをレガシ NTFS ドライバを使用して復元すると、復元されたデバイスのオペレーティングシステムがブートしないことがあります。

解決策: 次のいずれかを実行します。

- Tuxera ドライバを使用してデバイスのイメージを取得して復元する
- WinPE を使用して .zmg フォーマットでデバイスのイメージを取得して復元する

6.7 ZENworks アプライアンス

- 10 ページのセクション 6.7.1 「IPv6 アドレスを使用して [端末とファイルエクスプローラ] タイルを開くと、Internet Explorer 11 ブラウザに空白のページが表示される」

6.7.1 IPv6 アドレスを使用して [端末とファイルエクスプローラ] タイルを開くと、Internet Explorer 11 ブラウザに空白のページが表示される

ZENworks アプライアンスで IPv6 アドレスを使用して [端末とファイルエクスプローラ] タイルを開くと、Internet Explorer 11 ブラウザに空白のページが表示されます。

解決策: UNC パス名で IPv6 リテラルアドレスを使用して ZENworks アプライアンスを開きます。

たとえば、`2001:db8::ff00:42:8329` は `2001:db8::ff00:42:8329.ipv6-literal.net` と記述できます。

7 その他のマニュアル

この Readme は、ZENworks 2017 Update 1 リリースに固有の問題をリストしています。他のすべての ZENWorks 2017 のマニュアルについては、[ZENworks 2017 マニュアルの Web サイト](#)を参照してください。

8 保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許ポリシー、および FIPS コンプライアンスの詳細については、<https://www.novell.com/company/legal/> を参照してください。

Copyright © 2017 Micro Focus Software Inc. All Rights Reserved.